

# このままでいいのか、ODA どうする、NGO



上 = 世銀の支援で作られたバクムンダムの水門開放を求める漁民  
下 = バクムンダムのあるムン川で仕掛け漁をする漁民  
(©メコン・ウォッチ)

日本のODA(政府開発援助)が、

「国際協力」の名分とは裏腹に、  
再び経済権益を中心とする国益追求路線に  
明確に舵を切っています。

自国の利益追求ではなく南北格差是正と国際連帯のODA、  
経済中心主義ではなく持続可能な社会のためのODAを  
NGOは長年こう主張し、政府への働きかけを行ってきました。

ODAがこのままでいいはずはありません。

ODAが依拠する経済成長主義をNGOはどう打ち破れるのか。

官僚主導から政治主導への掛け声が上がるいま、

ODA政策の意思決定に

NGO・市民/社会運動の意見を反映させるようにするためには、  
どんな仕組みが必要なのか。

ODA見直しの抜本的課題をNGOの視点から考えます。

■日時 2010年6月6日(日) 午後2時~5時

(予約不要 / 参加費=資料代500円)

■場所 法政大学市ヶ谷キャンパス ポアソナード・タワー

(富士見校舎正門を右へ右手の高層建物) 26階 A会議室

(アクセス右記参照 / 地図 [www.hosei.ac.jp/hosei/campus/annai/chigaya/access.html](http://www.hosei.ac.jp/hosei/campus/annai/chigaya/access.html))

■発言

☞ 満田夏花 (メコン・ウォッチ)

「複製される成長神話とODA~NGOの果たす役割」

☞ 村井吉敬 (早稲田大学アジア研究所教授)

「官僚主導から政治主導へ~だれに対してなにを提言するのか」

【主催】〈NGOと社会〉の会(お問い合わせは下記事務局まで)

【共催】法政大学国際文化学部



法政大学市ヶ谷キャンパス  
東京都千代田区富士見 2-17-1  
JR/地下鉄 飯田橋・市ヶ谷駅各徒歩約10分

## 〈NGOと社会〉の会とは

〈NGOと社会〉の会は、NGOが直面する問題を社会の課題として発信し討議する場として『国家・社会変革・NGO』(新評論刊)の書き手たちが発足させた会です。2007年の発足以来、シンポジウムやトーク・インの開催、ニュースレターの発行を通じてNGO活動の自己検証や問題提起を続けています。楽観的なNGO称揚論の時代が去り、急速に変化する世界の中でNGOがその存在意義を不断に問われ続ける中、「できるだけ本当のことを言おう!」をモットーに〈NGO〉と〈社会〉への問いかけを行っています。

代表: 藤岡美恵子 事務局連絡先: 新評論編集部内 NGOと社会の会 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 3-16-28 (株)新評論 TEL 03-3202-7391 / FAX 03-3202-5832

## 〈NGOと社会〉の会 がたずさわった本(新評論刊)

### 国家・社会変革・NGO

政治への視線/NGO運動はどこへ向かうべきか  
「生きた社会運動」のための備忘録!

藤岡美恵子・越田清和・中野憲志=編/執筆: 李姫子、下澤嶽、高橋清貴、サラ・リスター (A5上製 334頁 定価3360円)

### 制裁論を超えて

朝鮮半島と日本の平和を紡ぐ

私たち自身の植民地主義を見つめ直し、連帯の思想を紡ぎ直す!

中野憲志=編/執筆: 藤岡美恵子・LEE Heeja・金朋央・宋勝哉・寺西澄子・越田清和 (四六上製 290頁 定価2730円)